

記入要領

個人調書

1. 「学歴」の欄について

- ① 大学若しくは高等専門学校又はこれらと同等以上と認められる学校卒業以上の学歴（大学の別科及び専攻科を含む。）を有する場合、すべての学歴（授与された学位及び称号を含む。）を記入し、それ以外の場合には、最終学歴を記入してください。なお、博士課程において所定の単位を取得し博士の学位を授与されないまま退学した場合には、「博士課程単位取得後退学」と記入してください。なお、学位の専攻分野については、授与された時期によって表記が異なりますので、授与された学位記に記載されたとおり正確に記入してください。また、授与機関についても併せて記入してください。
- ② 学位については、付記された専攻分野の名称及び学位論文の題目を併記してください。
- ③ 医師、看護師、理学療法士、保育士、教員等の資格についても記入してください。この場合、登録番号等も併記してください。外国における資格にあっては、正確に記入するとともに、その資格の内容を日本語で併記してください。
- ④ 学生としての外国の大学や研究機関等への留学歴についても記入してください。
- ⑤ 外国の大学等の経歴を記載する場合は、大学等の名称や学位等はアルファベットとカタカナを併記し、国名を必ず記載してください。職歴についても同様に扱ってください。

2. 「職歴」の欄について

- ① すべての職歴（自営業、主婦、無職等を含む。）を記入するとともに、職名、地位等についても明記してください。空白の期間がないように記入してください。
- ② 各職歴について在職期間を明確にし、現職については「現在に至る」と記入してください。
- ③ 研究者としての外国の大学や研究機関等への留学歴についても記入してください。
- ④ 過去における教員組織審査において教員の資格があると認められた場合には、当該審査に係る時期、大学の名称、職位及び担当授業科目の名称（大学院にあっては、判定結果を含む。）を記入してください。また、過去における高等専門学校の教員資格の認定を受けた場合には、当該認定に係る時期、高等専門学校の名称、職位及び担当授業科目の名称を記入してください。
- ⑤ 大学教員の職歴については、主な担当授業科目を併記してください。

3. 「学会及び社会における活動等」の欄について

- ① 学会及び社会における活動等のうち、専攻や研究分野等に関連する事項を記入してください。
- ② 教育研究上の業績を有する場合、その内容を具体的に記入してください。

4 「賞罰・処分歴等」について

「賞罰・処分歴等」の欄には、学会や出版社からの表彰や職務上の表彰や懲戒処分等を記入してください。また、過去に学生に対するセクシュアルハラスメントを含む性暴力等を原因として懲戒処分もしくは分限処分を受けた場合には、処分の内容及びその具体的な事由を必ず記入してください。

教育研究業績書

1) 教育業績について

教育実践の主な業績について活動をまとめてください。
「年月日」の欄は、西暦を用いて記入してください。

- ① 「研究分野」及び「研究内容のキーワード」
 - ・ 「研究分野」の欄には、科学研究費補助金の「系・分野・分科・細目表」の分科レベルの名称を用いて、研究分野の主なものを三つ以内で記入してください。
 - ・ 「研究内容のキーワード」の欄には、同表の細目を参考に、研究内容を表すキーワードを五つ以内で記入してください。
 - ・ 分科レベルに該当がない場合は、適宜記入してください。
- ② 「教育上の能力に関する事項」及び「職務上の実績に関する事項」
 - ・ 「事項」の項には、各区分に該当する教育上の能力及び職務上の実績に関する事項を、以下の例を参考に、過去から現在まで簡潔に記入してください。

<「教育上の能力に関する事項」の例>

1 教育方法の実践例

- ・ 大学・短期大学・大学院など高等教育機関において授業科目を担当している教員が、学生の理解を図るため、工夫を凝らした分かりやすい授業を実施しているかを記入してください。
(具体例) ICT等を活用した授業方法、学生の授業外における学習効果促進のための取り組み
授業内容のweb上での公開等

2 作成した教科書・教材

- ・ 学生の理解を図るために作成し、また、授業や研修指導等において活用している教科書や教材を記入してください。
(後の「研究業績等に関する事項」との重複も可。その場合「(再掲)」と表記すること。)

3 教育上の能力に対する大学等の評価

- ・ 学生の理解を図るために行っている教育上の取り組みに対して、大学から特に高い評価を受けた場合のみ記入してください。
(具体例) 採用決定の際などにおける評価内容
各大学における自己点検・自己評価での評価結果
学生による授業評価結果、教員相互による評価結果

4 実務の経験を有する者についての特記事項

- ・ 外部と連携することによって成果を上げた教育に関する取り組みを記入してください。
(具体例) 大学から受入れた実習生等に対する指導
訴訟・審判・監査・与信・企業提携・研究開発等の専門的実務に関する教育・研修
大学の公開講座や社会教育講座における講師、シンポジウムにおける講演等

5 その他

- ・ 学生の理解を図るために行っている取り組みのうち、上記に該当しないものを記入。また、大学教育改善に関する活動概要、教育実績に対する受賞歴など。現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代 GP）または大学教育高度化推進支援プログラムの申請書類作成担当者は、その旨を記述して下さい。

委員会活動として実施した事項は、原則含めず、含める場合も個別事案ではなく総括して述べてください。

学内での打ち合わせについては原則含めないでください。

(具体例) 大学教育改善に関する団体等での活動の概要、教育実績に対する表彰
国家試験問題の作成 等

< 「職務上の実績に関する事項」 の例 >

2 特許等

特許、実用新案等で担当予定科目に関連するもの

3 実務の経験を有する者についての特記事項

- ・ 大学との共同研究
- ・ 訴訟・審判・監査・与信・企業提携・研究開発等の担当実績
- ・ 各種審議会・行政委員会、各種ADR等の委員
- ・ 行政機関における調査官等
- ・ 調査研究、留学、海外事情調査等
- ・ 芸術・体育関係者の場合は作品・発表の概要、社会的活動

4 その他

- ・ 職能団体等からの実務家としての卓越性に関する評価・推薦等

2) 研究業績について

著書、学術論文等は、「著書」「学術論文」「その他」の3つに区分に分けて記載してください。

(著書)

- ① 名称（タイトル）は副題まで正確に記入すること（タイトルが英文の場合は文末に括弧書で日本語訳を記入すること）
- ② 発表年月は年代順（過去→現在）に整理して簡潔に記載すること
- ③ 概要部分については、簡潔な記載とすること（200文字程度）
- ④ 共著の場合は、本人担当部分を明示すること（担当部分の項目タイトル、掲載ページ数）
- ⑤ 監修者・共著者がいる場合は、書籍に記載されている執筆者記載順番に記載すること

(学術論文)

- ① 名称（タイトル）は副題まで正確に記入すること（タイトルが英文の場合は文末に括弧書で日本語訳を記入すること）
- ② 査読がある場合は「査読あり」と括弧書きで記載すること。また、学位を取得した際の論文にも学位の種類を記載すること
- ③ 発表年月は年代順（過去→現在）に整理して簡潔に記載すること
- ④ 「発行所、発表雑誌等」の欄には掲載されている雑誌のタイトルと掲載ページを記載すること
- ⑤ 概要部分については、簡潔な記載とすること（200文字程度）
- ⑥ 共著の場合は、本人担当部分を明示すること（タイトル）
- ⑦ 共著者がいる場合は、発表資料等に記載されている順番に氏名を記入し、本人氏名に下線を引くこと

(その他)

- ① 名称（タイトル）は副題まで正確に記入すること（タイトルが英文の場合は文末に括弧書で日本語訳を記入すること）
- ② その他業績については、単著・共著の別の欄に「－」と記載すること
- ③ 発表年月は年代順（過去→現在）に整理して簡潔に記載すること
- ④ 「発表学会等の名称」の欄には当該事項を発表したイベント名称と開催場所（市町村名まで）を記載すること
- ⑤ 概要部分については、簡潔な記載とすること（200文字程度）
- ⑥ 共同発表の場合は、抄録等に記載されている順番に氏名を記入し、本人氏名に下線を引くこと
- ⑦ 発表方法について括弧書きで記載すること（口演またはポスター）
- ⑧ 学術発表以外のその他業績がある場合は、適宜、欄を追加して項目ごとに発表年月は年代順に整理して簡潔に記載すること。その際の作成時の注意点は上記を参考にする